

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 10 月 21 日 (2021.10.21)

【公開番号】特開 2021-112570 (P2021-112570A)

【公開日】令和 3 年 8 月 5 日 (2021.8.5)

【年通号数】公開・登録公報 2021-035

【出願番号】特願 2021-8856 (P2021-8856)

【国際特許分類】

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

A 6 1 B 1/018 (2006.01)

G 0 2 B 23/24 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 1/00 7 1 0

A 6 1 B 1/018 5 1 5

A 6 1 B 1/00 7 1 1

G 0 2 B 23/24 A

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 8 日 (2021.9.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

母内視鏡に取り付け可能な副内視鏡であって、  
内側通路を含む外側体と、該外側体の前記内側通路内に配置されるロッド要素とを有する、グリップ体と、  
前記グリップ体に取り付けられるカテーテルチューブと、  
前記カテーテルチューブの遠位端に配置される曲がる部分を制御するために前記グリップ体の近位側にある旋回可能な制御要素であって、前記ロッド要素の近位側に配置される、旋回可能な制御要素と、  
当該副内視鏡を母内視鏡に固定するために前記グリップ体の遠位端にある取付体であって、前記グリップ体の前記外側体に取り付けられる、取付体と、を含み、  
前記取付体は、前記ロッド要素に回転不能に取り付けられる回転不能な接続片に回転不能に接続される、

副内視鏡。

【請求項 2】

前記接続片の近位端が、前記グリップ体の遠位端に回転不能に接続され、前記取付体は、前記接続片の遠位端に回転不能に接続される、請求項 1 に記載の副内視鏡。

【請求項 3】

前記接続片は、チューブ要素であり、前記内側通路を延長する、請求項 1 又は 2 に記載の副内視鏡。

【請求項 4】

前記取付体は、中空であり、前記内側通路を延長する、請求項 1 ～ 3 のうちのいずれか 1 項に記載の副内視鏡。

【請求項 5】

前記取付体は、ルアーロック接続部を構成し、グリップ要素と、ルアーロックコーンと

、前記ルアーロックコーンの近位部分を取り囲み、前記グリップ要素の遠位端に当接する近位端を含む、ルアーロックスリーブと、を含む、請求項 1 又は 2 に記載の副内視鏡。

**【請求項 6】**

前記取付体の前記グリップ要素は、前記ルアーロック接続部が閉塞された状態及び開放された状態についての情報をもたらすマーキングを含む、請求項 5 に記載の副内視鏡。

**【請求項 7】**

母内視鏡と副内視鏡との組み合わせであって、  
副内視鏡のためのアクセス接続片を含む母内視鏡と、  
請求項 1 ～ 6 のうちのいずれか 1 項に記載の副内視鏡と、を含む、  
組み合わせ。

**【請求項 8】**

母内視鏡と副内視鏡との組み合わせであって、  
母内視鏡グリップの遠位側に副内視鏡のためのアクセス接続片を有する母内視鏡と、  
前記アクセス接続片に取り外し可能に取り付けられる、請求項 1 ～ 7 のうちのいずれか  
1 項に記載の副内視鏡であって、副内視鏡グリップと、カテーテルチューブとを含む、副  
内視鏡とを含み、

前記副内視鏡の前記カテーテルチューブは、前記副内視鏡グリップのカテーテル通路を  
通じて案内され、

前記副内視鏡グリップの遠位端は、前記母内視鏡の前記アクセス接続片に取り外し可能  
に取り付けられ、

その取付位置において、前記母内視鏡グリップ上の副内視鏡は、前記母内視鏡の前記ア  
クセス接続片の近位側に取り外し可能に取り付けられ、

カテーテル入口開口が、前記副内視鏡の前記取付位置より近位側に位置付けられる、  
組み合わせ。

**【請求項 9】**

前記副内視鏡グリップは、近位側にある追加的な通路入口開口と、遠位側にある流体入  
口開口とを更に含む、請求項 8 に記載の組み合わせ。